

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 11 月 4 日現在

機関番号：94505

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2015

課題番号：25381301

研究課題名(和文) 高校・大学生の発達障害における身体機能障害の評価・支援法の開発とデータベース構築

研究課題名(英文) Development of Assessment Tool and Database of Coordination and Sensory Problems in Adolescents with Neurodevelopmental Disorders.

研究代表者

中井 昭夫 (NAKAI, AKIO)

社会福祉法人兵庫県社会福祉事業団兵庫県立リハビリテーション中央病院(子どもの・子どもの睡眠と発達医療センター・副センター長)

研究者番号：50240784

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,200,000円

研究成果の概要(和文)：従来、小児期の発達性協調運動障害(DCD)は青年期・成人でも50-70%と高い頻度で残存し、学業や就業選択、生産性に影響、うつなど精神障害、生活習慣病につながる。発達障害当事者へのアンケート調査を行い、データベース構築に寄与すべく課題を抽出した。国際共同研究によりAdult Developmental Co-ordination Disorders/Dyspraxia Checklist日本語版の開発を行った。成人360名による予備的検討の結果、内的信頼性は0.924と非常に高く有用性が示された。その他、DCDの評価や支援方法の開発、他の神経発達障害との関連について詳細な臨床研究を行った。

研究成果の概要(英文)：We developed the Japanese version of the ADC (ADC-J) with international collaborative study. The questionnaire was translated according to the guidelines for cross-cultural translations of instruments. The adapted ADC-J has been administered to Japanese adults, as the pretest. Data were collected from the 360 Japanese adults. Cronbach's coefficient alpha was calculated for total and each of the three ADC subscales, and these are enough high as the original ADC, total 0.924, Subscale A 0.813, Subscale B 0.814, and Subscale C 0.886, respectively. The Japanese version of the ADC is expected to be a useful screening instrument to identify and assess motor coordination difficulties of adults in Japan, and it enables the cross-cultural comparison. We also have conducted many clinical studies about the relationship between DCD and other neurodevelopmental disorders.

研究分野：発達行動小児科学

キーワード：発達性協調運動障害 アセスメント 青年期・成人 国際共同研究

1. 研究開始当初の背景

申請者はこれまでに、平成 19 年度 文部科学省「子どものこころの成長に関する基盤整備事業」により「発達障害者に対するトランジション・リエゾン支援研究グループ」として連携・協働研究体制を構築し、平成 20～22 年度日本学生支援機構「障害学生受入促進研究委託事業」、平成 22 年度「北陸地区国立大学学術研究連携支援」により、発達障害のある青年期・成人期の支援について様々な取り組みやモデルの提唱などを行ってきた。

一方、これらの取り組みを通じて、青年期・成人期の発達障害当事者の様々な生活場面での一番の「困り感」は身体感覚の独特の認知の仕方を含めた、様々な環境の中での感覚過敏・鈍麻など感覚の問題や、いわゆる「不器用」と呼ばれる「協調 Coordination」の稚拙さなど、身体機能の調整障害からくる「生活障害」であることに気付かされた。

実際、発達障害に「感覚障害」や「不器用」など身体機能障害を伴う事が多い。しかし、支援の現場では「協調」が視知覚・触覚・固有覚・位置覚など「身体感覚」の入力から、その出力である運動制御の「統合脳機能」であるという認知はまだ低い。社会性も協調も自己を基準に他者や周囲の環境を認識するというプロセスが必要で、両者に共通の「身体化による認知 embodied cognition」という神経基盤の存在が示唆されている (Haswell C, et al. 2009, Linkenauger SA, et al. 2012, Vakalopoulos C. 2012)。また、最新の当事者研究からも、感覚運動レベルの「情報のまとめあげ困難」が根底にある特性であり、これら、また、そこから生じる「不安」などが、ある条件で「社会性の障害」という形で記述されるという可能性が示唆されている (綾屋,熊谷 2008, 2010)。

更に、我が国では、これら「感覚」や「協調」の国際的な尺度はほとんど存在しなかったが、青年期・成人用感覚プロファイルは現在標準化作業が進められている。一方、「協調」については申請者がこれまでに複数の国際共同研究により国際ガイドラインで推奨される小児期の世界標準的アセスメントツールの日本語版の開発を行ってきた。小児期の「協調」の問題は 70～80%と、従来考えられていたよりもはるかに高い頻度で青年期・成人になっても残存し、自尊感情の低下、社会参加、職業選択にも影響し、うつ病など精神障害、肥満や糖尿病、高血圧、心血管障害など生活習慣病につながる事が明らかである。世界的にも青年期・成人の協調の問題を評価する尺度が存在しなかったが、2010 年英国 Kirby らにより、Adult Developmental Co-ordination Disorders/Dyspraxia Checklist (ADC)が開発された。

2. 研究の目的

本研究は、神経発達障害はいわゆる「不器用」と呼ばれる「協調」の稚拙さや、感覚の問題など「身体機能の調整障害」による「生活障害」であるという最新の脳科学や「当事者研究」の知見に基づいた観点から青年期・成人のこれらの問題について明らかにし、包括的な支援・指導による当事者の社会参加を

目指す事を目的とする。発達障害当事者からのアンケート調査から、支援者はもとより当事者自身が気づけなかった「困り感」を把握するとともに、未だ確立されていない、我が国における青年期・成人期の「協調運動」の国際的評価尺度の開発を行う。

3. 研究の方法

A) 発達障害当事者に対するアンケート調査
研究代表者、連携研究者が、発達障害当事者とその家族らと設立し、様々な活動を理事として行っている特定非営利活動 (NPO) 法人のメンバーの協力により、「不器用さ」「協調」の稚拙さ、感覚の問題についてアンケート調査を行った。個人が特定されない無記名の調査票とし、自由記載の形式とした。

B) ADC 日本語版の開発

ADC は青年・成人期における様々な「不器用」「協調」の問題を系統的・客観的に捉えるアセスメントツールで、小児期の回顧 (10 項目) 現在の状況 (10 項目) QOL や社会参加など (20 項目) の 3 つのサブスケールから構成されている。文化適応は、国際的ガイドライン (Beaton DE, 2000) に則り作成する。

C) 協調運動など身体性と神経発達障害との関連についての検討と介入方法の開発研究

協調運動など身体性と ASD における社会コミュニケーション、ADHD における実行機能などとの関連について検討を行った。一方、我が国における DCD への介入に関する実践報告はほとんどなく、どのように介入・指導していくかについても未だ手探りの状況である。そこで、DCD を併存する ASD に対し、療育方法の開発検討を試みた。

4. 研究成果

A) 発達障害当事者に対するアンケート調査

得られた自由記述からテキストデータマイニング等の手法も用いて検討した結果、ADC や感覚プロファイル日本語版の質問項目が多く含まれており、更に、協調運動に関する特徴は、2013 年に公表された DSM-5 における DCD の診断基準や診断的特徴に記載されている項目が多く認められ、ADC 日本語版開発の必要度が再確認された。なお、乳幼児から青年期・成人までを含むアンケート調査の結果は『そだちの科学』特集「そだちからみたおとなの発達障害」において公表した。

B) ADC 日本語版の開発と心理測定特性の検討

作成した ADC 日本語版を用いて 360 名の成人を対象にプリテストを行った。結果、内的信頼性について、Cronbach の係数は合計スコアが 0.924, Subscale A が 0.813, Subscale B が 0.814, Subscale C が 0.886 と非常に高く、また、成人における総スコア、サブスケールのスコアは、オリジナルの英国とのデータとほぼ同等であった。

同時に行った、成人用 ADHD の評価尺度である Adult ADHD Self-Report Scale (ASRS-v1.1) 日本語版と ADC 日本語版との関連について検討したところ、男女とも、総スコア、下位尺度ともよく相関し、我々のこれまでの小児での検討 (Nakai A, et al. 2011) と同様に、協調と実行機能・報酬系・

時間処理との関連は成人においても認められることが明らかとなった。これらの成果は国内外の学会にて発表を行なった。

C) 協調運動など身体性と神経発達障害との関連についての検討と介入方法の開発研究

日本人高機能 PDD 男児において、約 40% に不器用さを認めた。ADI-R 日本語版のコミュニケーションと粗大運動・微細運動の関連を認めた。また、ASD における ASD 特性と協調、ADHD 特性について検討した結果、ASD と DCD が相関、ADHD 特性と微細運動や全般的協調に相関がみられた。ASD と DCD の関連については、ASD 特性と手先の巧緻性・微細運動の程度が相関することが明らかとなった。本成果は国内・国際雑誌に掲載された。また、DCD を併存する ASD に対し、認知指向型・家族参加型のグループリハビリテーションを行ったところ、少数例での検討であるが、子ども自身のみならず、家族に対しても一定の効果を得ることができた。本成果は専門学会誌に掲載され、平成 27 年度奨励賞を受賞した。

DSM-5 の ASD の診断基準には感覚の問題について追記され、また、ASD と DCD の併存が認められるなど、今後、神経発達障害の診療・支援や研究には身体機能の問題の評価とそれらに基づいた治療・療育・教育などの支援や研究対象の選択などがますます重要となる。

5. 主な発表論文等

(下線は研究代表者及び連携研究者)

[雑誌論文](計 21 件)

1) 中井昭夫

「発達障害の子どもの不器用さのアセスメント・診断と治療の実際」

特集「不器用さのある発達障害の子どもたちへの支援」「アスペ ハート」33:26-33.2013.

2) 中井昭夫

「てんかんの分子イメージング」

特集「PET による神経・精神疾患の分子イメージング」PET ジャーナル 23:16-18.2013.

3) 中井昭夫

「発達障害者雇用は戦略である ～まずは発達障害への正しい理解と合理的配慮から～」

特集「ものづくりを行うための人材育成～教育・医療・福祉との連携、協働に向けて～」日本設備管理学会誌 25:2-8.2013.

4) 小越咲子, 小越康宏, 武澤友広, 中井昭夫, 山崎京子, 三橋美典

教育から就労までをつなぐ継続的協働型支援データベースシステムの提案～ICF を用いた発達障害児者支援システムの開発～
日本設備管理学会誌 25:33-38.2013.

5) 中井昭夫

「子どもの発達研究におけるいくつかの「ギャップ」」日本赤ちゃん学会誌「ベビーサイエンス」13:57-59.2013.

6) 中井昭夫

「発達障害は身体障害？～協調運動からの発達障害へのアプローチ～」

小児の精神と神経 54:143-145.2014.

7) 中井昭夫

論・考・想「発達障害の診察室で考えていること」日本子ども学会雑誌「チャイルドサ

イエンス」10:4-9.2014.

8) Hirata S, Okuzumi H, Kitajima Y, Hosobuchi T, Nakai A, Kokubun M. Relationship between motor skill impairment and social impairment in children with autism spectrum disorders. International Journal of Developmental Disabilities 60:251-256.2014.

DOI: 2047387713Y.0000000033

9) Miyachi T, Nakai A*, Tani I, Ohnishi M, Nakajima S, Tsuchiya KJ, Matsumoto K, Tsujii M.

Evaluation of Motor Coordination in Boys with High-functioning Pervasive Developmental Disorder using the Japanese Version of the Developmental Coordination Disorder Questionnaire.

Journal of Developmental and Physical Disabilities 26:403-413.2014.

DOI: 10.1007/s10882-014-9377-1,

* *Corresponding Author*

10) Yamada N, Nakai A*, Nishida K, Mayumi M.

A Case of Infantile Miller Fisher Syndrome. Pediatr Neonatal Care 2:1. 2014.

* *Corresponding Author*

11) 中井昭夫

手指の巧緻性の発達における重要な視点。ムジカノーヴァ 特集「子どもの発達段階に応じたピアノ指導」45:22-25.2014.

12) 中井昭夫

巻頭言「子どもの睡眠障害診療から見えてきた現代の子ども事情」発達教育 34:3.2015

13) Hirata S, Okuzumi H, Kitajima Y, Hosobuchi T, Nakai A, Kokubun M.

Relationship between Motor Skill Impairments and Motor Imagery Ability in Children with Autism Spectrum Disorders: A Pilot Study Using the Hand Rotation Task. Psychology 6:752-759.2015.

DOI: 10.4236/psych.2015.66073

14) 中井昭夫

「不器用な子どもたちに関する基本的な理解～発達性協調運動障害～」

チャイルドヘルス「子どもの不器用」18:406-409.2015.

15) 多辺田俊平、相崎貢一、北洋輔、松尾美穂、神田聡、上田敏宏、小沢浩、中井昭夫

自閉症スペクトラム障害児の不器用さに対する認知指向型・家族参加型グループリハビリテーションの試み～しまはちチャレンジグループの有効性と課題～
作業療法 34:307-316.2015.

16) Hirata S*, Nakai A*, Okuzumi H, Kitajima Y, Hosobuchi T, Kokubun M

Motor Skills and Social Impairments in Children With Autism Spectrum Disorders A Pilot Study Using the Japanese Version of the Developmental Coordination Disorder Questionnaire (DCDQ-J)

SAGE Open July-September 2015: 1-7

DOI: 10.1177/2158244015602518

**equally contributed*

17) 水野賀史、宮地泰士、大橋圭、浅井朋子、今枝正行、飯田陽子、今橋寿代、中井昭夫
自閉症スペクトラム障害児における特性の

強さと協調運動の問題の関係について
小児の精神と神経 55:189-195.2015.
18) Tran NN, Pham TT, Ozawa K, Nishijo M,
Nguyen AT, Tran TQ, Hoang LV, Tran AH, Phan
VH, Nakai A, Nishino Y, Nishijo H.
Impacts of Perinatal Dioxin Exposure on
Motor Coordination and Higher Cognitive
Development in Vietnamese Preschool
Children: A Five-Year Follow-Up
PLoS ONE 11(1): e0147655
<http://dx.doi.org/10.1371/journal.pone.0147655>

19) 中井昭夫

「運動をアセスメントする M-ABC2: Movement
Assessment Battery for Children(M-ABC2)
第2版日本語版」 臨床心理学「特集 発達
障害のアセスメント」 16: 69-71.2016.

20) 戸次佳子、中井昭夫、榊原洋一

協調運動の発達と子どものQOLおよび精神的
健康との関連性の検討

小児保健研究 75:69-77.2016.

21) 中井昭夫

「発達性協調運動症のそだち」

そだちの科学 26:54-58.2016.

〔学会発表〕(計 41件)

国際学会

国際招待講演

1) Nakai A

Embodiment in Neurodevelopmental
Disorders: Developmental Coordination
Disorder.

Collaboration Workshop between Japan and
Vietnam for Child Health in Da Nang
2013.12 Da Nang, Vietnam

2) Nakai A

Neurodevelopmental disorders of children,
including Developmental Coordination
Disorder. What are these disorders?
Dioxin Conference on the Collaborative
Projects between Japan and Vietnam;
co-hosted by the VMMU and JSPS Asian CORE
Program

2013.12 Da Nang, Vietnam

3) Nakai A

MOTOR COORDINATION DYSFUNCTION, SO-CALLED
“CLUMSINESS”, IN DEVELOPMENTAL
DISORDERS

Japan Society for the Promotion of Science
(JSPS) Asia Core Program

Center for Promotion of Education and
Research on Mind Development based on
Cooperation with Brain Science and
Epidemiology, Joint Seminar

2013.12 Hanoi, Vietnam

一般演題

4) Nakai A, Ohnishi M, Mitsuhashi Y, Wilson
BN

Motor Coordination Dysfunction in AD/HD:
Estimated prevalence of DAMP syndrome in
Japan, using Japanese version of the
Developmental Coordination Disorder
Questionnaire (DCDQ)

the 4th World Congress of ADHD

2013.06 Milano, Italy

5) Nakai A, Ohnishi M, Yoshizawa M,

Mitsuhashi Y, Wilson BN.

Prevalence of DAMP syndrome in Japan: A
Nation-Wide Study, using Japanese version of
of DCDQ and ADHD-RS.

International Conference on Developmental
Coordination Disorder (DCD-X),
2013.6 Ouro Preto, Brazil

6) Nakai A, Ohnishi M, Yoshizawa M,
Mitsuhashi Y, Schoemaker MM.

How Do Teachers in Japan Assesse the
“Clumsiness” and “Attention” in
Children? : Lesson from a Nation-Wide
Study, using MOQ-T.

International Conference on Developmental
Coordination Disorder (DCD-X),
2013.6 Ouro Preto, Brazil

7) Rihtman T, Wilson BN, Cermak S, Rodger
S, Schoemaker MM, Cantell M, Jover M,
Albaret JM, Ray-Kaeser S, Magalhaes L,
Cardoso AA, Van Waelvelde H, Hultsch D,
Tseng MH, Sun SH, Pineaar A, Coetzee D,
Nakai A, Green D, Martine R, Parush S.

Can a Little Instrument make a Big Noise?
A Cross-cultural collaboration for
Identifying Motor Delay in Young
Preschoolers.

International Conference on Developmental
Coordination Disorder (DCD-X),
2013.6 Ouro Preto, Brazil

8) Hirata S, Okuzumi H, Kitajima Y,
Hosobuchi T, Nakai A, Kokubun M
Relationship between Motor Skill
Impairment and Autistic Traits in Children
with Autism Spectrum Disorders

International Conference on Developmental
Coordination Disorder (DCD-X),
2013.6 Ouro Preto, Brazil

9) Nakai A, Ohnishi M, Mitsuhashi Y,
Schoemaker M.M, Wilson B.N

The Relationship between Motor
Coordination Impairments and ADHD Traits
in Japanese Children: Lessons from a
Nation-Wide Study, using Japanese version
of the DCDQ and the MOQ-T.

The 2nd Asian Congress on ADHD

2014.3 Tokyo, Japan

10) Naruse H, Yastsuga C, Fujisawa T,
Takiguchi S, Mizushima S, Aoi T, Koizumi
M, Shimada S, Baba H, Nakai A, Tomoda A.
Gait Differences in Children With and
Without ADHD :A Quantitative Analysis.

The 2nd Asian Congress on ADHD

2014.3 Tokyo, Japan

11) Rihtman T, Wilson BN, Cermak S, Rodger
S, Schoemaker MM, Cantell M, Jover M,
Albaret JM, Ray-Kaeser S, Magalhaes L,
Cardoso AA, Van Waelvelde H, Hultsch D,
Tseng MH, Sun SH, Pineaar A, Coetzee D,
Nakai A, Green D, Martine R, Parush S.

A Cross-cultural Collaboration for
Identifying Motor Delay in Young
Preschoolers.

The 16th International Congress of the
World Federation of Occupational
Therapists in collaboration with the 48th
Japanese Occupational Therapy Congress

and Expo.

2014.6 Yokohama, Japan (accepted)

12) Nakai A, Takayama K, Ohnishi M, Mitsuhashi Y, Kirby A.

The Development of the Japanese version of the Adult Developmental Co-ordination Disorders/Dyspraxia Checklist (ADC)

the 13th Asian and Oceanian Congress of Child Neurology (2015 AOCCN), May 14-17. Taipei, Taiwan

13) Nakai A, Takayama K, Ohnishi M, Mitsuhashi Y, Kirby A.

The Development of the Japanese version of the Adult Developmental Co-ordination Disorders/Dyspraxia Checklist (ADC).

The 11th International Conference on Developmental Coordination Disorder (DCD-11), June 2-4, Toulouse, France

14) Kita A, Hirata S, Suzuki K, Sakihara K, Inagaki M, Nakai A.

A preliminary study of the Movement Assessment Battery for Children-Second Edition on Japanese children: Age band 2.

The 11th International Conference on Developmental Coordination Disorder (DCD-11), June 2-4, Toulouse, France

15) Suzuki K, Hirata S, Kita Y, Sakihara K, Inagaki M, Nakai A

A Pilot Study of the Movement Assessment Battery for Children-Second Edition on Japanese children: Age Band 1.

The 11th International Conference on Developmental Coordination Disorder (DCD-11), June 2-4, Toulouse, France

16) Tokunaga A, Higashionna T, Nakai A, Iwanaga R

Comparison of Usefulness between the Japanese Playfulness Assessment for Neuropsychological Abilities and the Movement Assessment Battery for Children-2 in Children with Autism Spectrum Disorder.

The 11th International Conference on Developmental Coordination Disorder (DCD-11), June 2-4, Toulouse, France

17) Higashionna T, Tokunaga A, Nakai A, Iwanaga R

The Relationship between Motor Coordination, Cognitive Abilities, and Academic Achievement in Japanese Children with Developmental Disorders.

The 11th International Conference on Developmental Coordination Disorder (DCD-11), June 2-4, Toulouse, France

18) Kashiwagi M, Tanabe T, Ohba C, Wakamiya E, Nakai A, Tamai H.

Evaluation of Motor Coordination in Children with Epilepsy, using the Japanese version of the DCQ.

The 11th International Conference on Developmental Coordination Disorder (DCD-11), June 2-4, Toulouse, France

19) Hirata S, Kita Y, Suzuki K, Okuzumi H, Kokubun M, Nakai A

Longitudinal Change in Motor Skills in Children with Autism Spectrum Disorders.

The 11th International Conference on Developmental Coordination Disorder (DCD-11), June 2-4, Toulouse, France

20) Rihman T, Wilson B.N, Cermak S, Rodger S, Kennedy-Behr A, Snowdon L, Schoemaker MM, Cantell M, Houwen S, Jover M, Albaret J-M, Ray-Kaesler S, Magalhães L, Cardoso AA, Van Waelvelde H, Hultsch D, Vincon S, Tseng MH, Pienaar A, Coetzee S, Nakai A, Martini R, Tercon J, Green D, Imperatore Blanche E, Diaz J, Parush S

Can a Little instrument make a big noise? A Cross-cultural Collaboration for Identifying Motor Delay in Young Preschoolers.

The 11th International Conference on Developmental Coordination Disorder (DCD-11), June 2-4, Toulouse, France

国内学会

招待講演など

21) 中井昭夫

発達障害は身体障害？～協調運動からの発達障害へのアプローチ～

第 110 回 日本小児精神神経学会シンポジウム「発達性協調運動障害の子どもたちの支援を考える」2013 年 11 月 名古屋

22) 中井昭夫

「Embodied Cognition：発達障害は身体障害？～協調からの発達障害へのアプローチ～」日本特殊教育学会第 52 回大会 シンポジウム「発達性協調運動障害 (DCD) への理解を深める～実践研究の最前線から～」

2014 年 9 月高知

23) 中井昭夫

「不器用な脳～協調からみた発達障害～」

日本子ども学会第 5 回日本子ども学カフェ

2015 年 5 月 東京

24) 中井昭夫

「協調から見た神経発達障害へのアプローチ」第 49 回日本作業療法学会ナイトセミナー「子どもの不器用さを考える～発達性協調運動障害 (DCD) を理解し、支援につなげるために～」2015 年 6 月神戸

25) 中井昭夫

特別講演「小児科医にこそ知ってほしい身体性からみた神経発達障害～発達性協調運動障害について～」日本小児科学会兵庫県地方会第 40 回吉馴学術記念講演会 2015 年 7 月神戸

26) 中井昭夫

大会長講演「かしこい身体、じょうぶな頭～身体性からみた子どもの脳とこころの発達～」第 12 回日本子ども学会議 (日本子ども学会学術集会) 2015 年 10 月 神戸

27) 中井昭夫

「ぶきつちよな子どもたち～発達性協調運動障害の気づきからアセスメント、そして支援へ～」日本小児神経学会「第 10 回プライマリケア医のための子どもの心の診療セミナー」2016 年 2 月 富山

一般演題

28) 中井昭夫, Brenda N. Wilson, Tanya Rihman, Shula Parush

Little Developmental Coordination

Disorder Questionnaire (Little DCDQ) 日本語版の作成と日本文化への適応
第 13 回日本赤ちゃん学会
2013 年 5 月 博多
29) 中井昭夫、三橋美典、吉澤正尹、川谷正男、Brenda N. Wilson
DCDQ 日本語版を用いた日本におけるいわゆる DAMP (Deficit of Attention, Motor control and Perception) 症候群の推定頻度
第 55 回日本小児神経学会
2013 年 5 月 大分 (推薦演題)
30) 中井昭夫、三橋美典、川谷正男、Marina M. Schoemaker
MOQ-T 日本語版を用いた日本におけるいわゆる DAMP (Deficit of Attention, Motor control and Perception) 症候群の推定頻度
第 55 回日本小児神経学会
2013 年 5 月 大分 (推薦演題)
31) 相崎貢一、雨宮 馨、野村芳子、小沢愉理、小沢 浩、井上祐紀、多辺田俊平、松尾美穂、神田 聡、北 洋輔、中井昭夫
広汎性発達障害児の不器用さに対する家族参加型・問題解決志向型グループリハビリテーションの試み ~しまはちチャレンジクラブの有効性と課題~
第 59 回日本小児神経学会関東地方会
2013 年 9 月 千葉
32) 飯田悠佳子、中井昭夫、森脇愛子、神尾陽子
児童における自閉症的行動特性と不器用との関連性
第 52 回日本児童青年精神医学会総会
2013 年 10 月 札幌
33) 柏木 充、田辺卓也、大場千鶴、島川修一、若宮英司、中井昭夫、玉井 浩
てんかん児における DCDQ 日本語版を用いた協調運動機能の評価
第 47 回日本てんかん学会 2013 年 10 月北九州
34) 水野賀史、宮地泰士、浅井朋子、今枝正行、中井昭夫
DCDQ 日本語版を用いた 広汎性発達障害、注意欠如多動性障害における 発達性協調運動障害併存についての検討
第 110 回 日本小児精神神経学会
2013 年 11 月 名古屋
35) 水野賀史、大橋 圭、宮地泰士、浅井朋子、今枝正行、中井昭夫、齋藤伸治
DCDQ 日本語版を用いた自閉症スペクトラム障害における発達性協調運動障害併存についての検討
第 56 回日本小児神経学会
2014 年 5 月 浜松
36) 中井昭夫、三橋美典、Amanda Kirby
Adult Developmental Co-ordination Disorders/Dyspraxia Checklist (ADC) 日本語版の作成と日本文化への適応
第 56 回日本小児神経学会
2014 年 5 月 浜松
37) 中井昭夫、三橋美典、Amanda Kirby
青年・成人期用 Adult Developmental Co-ordination Disorders/Dyspraxia Checklist 日本語版の開発
第 111 回日本小児精神神経学会 2014 年 6 月 東京
38) 豊浦麻記子、中井昭夫、尾張慶子、田島

世貴、高井一美、三池輝久、小西行郎
睡眠障害にて入院となった小児におけるインターネット利用と依存に関する臨床的検討
第 118 回日本小児科学会 2015 年 4 月大阪
39) 田島世貴、中井昭夫、豊浦麻記子、尾張慶子、高井一美、三池輝久、小西行郎
概日リズム睡眠障害を来した自閉症スペクトラム障害児と定型発達児の生理学的比較検討
第 118 回日本小児科学会 2015 年 4 月大阪
40) 豊浦麻記子、中井昭夫、尾張慶子、田島世貴、三池輝久、小西行郎
著明な過眠および食欲低下を呈した女兒に対する包括的治療
第 57 回日本小児神経学会 2015 年 5 月大阪
41) 田島世貴、中井昭夫、豊浦麻記子、尾張慶子、三池輝久、小西行郎
学童期・思春期における睡眠時無呼吸・低呼吸判定基準の妥当性の検討
~AASM2007 小児基準と成人基準の比較~
第 57 回日本小児神経学会 2015 年 5 月大阪

〔図書〕(計 5 件)

1) 中井昭夫
「発達障害領域でよく使用されるアセスメントツール; 協調運動機能のアセスメント: DCDQ-R、Movement-ABC2」
「発達障害児者支援とアセスメントのガイドライン」pp.257-264.金子書房、東京(2014)
2) 中井昭夫
「アセスメントツールの活用の仕方: 発達性協調運動障害(Developmental Coordination Disorder: DCD)」
「発達障害児者支援とアセスメントのガイドライン」pp.290-296.金子書房、東京(2014)
3) 中井昭夫
「子どものトラウマへの予防と治療としてのペアレントトレーニング」
「子どもの PTSD: 診断と治療」pp.215-224
診断と治療社、東京 (2014)
4) 三池輝久、小西行郎、中井昭夫 (編集)
「いま、小児科医に必要な実践臨床小児睡眠医学」 診断と治療社 東京 (2015)
5) 中井昭夫
「胎児期からの水頭症と、筋緊張低下、肝障害、治療抵抗性けいれんを認めた新生女児」
『続・イメージからせまる小児神経疾患 50 症例から学ぶ 診断・治療プロセス』
診断と治療社 東京 p.81-82. (2015).

〔産業財産権〕

出願状況 (計 0 件) 取得状況 (計 0 件)

〔その他〕ホームページ等

子どもの睡眠と発達医療センター
http://www.hwc.or.jp/hospital/kodomo/syouni_suimin_top.html

6. 研究組織

(1) 研究代表者

中井 昭夫 (NAKAI, Akio)

兵庫県立リハビリテーション中央病院・

子どもの睡眠と発達医療センター・副センター長

研究者番号 50240784